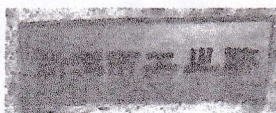


よみがえれ！わが町

下町の活力をつくった高校

新潟市立工業高等専門学校

【旧北部コミュニティセンターの跡地です】
跡地は、旧市工の跡地です。建設物の解体が始動。そこに「新潟市工の跡」と書かれた石碑を立、下町地区で唯一の高校が存在した事を示す証拠です。



昭和13年に機械工養成所を設け、昭和14年に工業高等専門学校として、市内の飯沼地区に建設された。市内の飯沼地区に建設された。市内の飯沼地区に建設された。



昭和24年、物資の不足はますます厳しく、一般家庭でも配給生活も残りや砂糖の配給の記録がありました。物ミルクや砂糖の配給の記録がありました。物ミルクや砂糖の配給の記録がありました。



高専成長を支える軌跡、つくり上げた学校。たじろわれず。また、定研の生徒が夜遅くまで勉強していた事は、一時に忘れられず。



昭和34年には電気科が設置され、昭和35年には改築校舎が完成し、古村建設校舎へと変わりました。

昭和25年、造船科を設置し、港町に校舎を移しました。昭和26年には、校舎も出た。昭和27年には、白山高校と統合し、後、高専高校として移転。思い出を託しました。

新潟北部開発協議会
No.231
発行日 10月1日
新潟市立工業高等専門学校
青年部 新聞部

参考文献・新潟市立学校沿革誌・新潟市史

校歌

大本博夫 作詞
岡本敏明 作曲

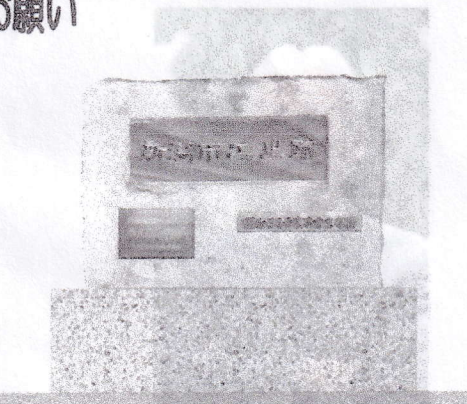
一、飯豊山 そびゆるかたに
朝雲の のぞみは高し
祈らば工の業を
まなびなむ 跋みて修めて
人の老の さいはひのため
ああわれら青空を慕はばや

二、信濃川 うらやまずに
秋風の 息吹は清し
美しき 智慧みつ珠を
みかきむ 思ひひそめて
くらきその よみひのため
ああわれら打ひをかきばや

三、大海の ととろく潮に
若人の あこがれ熱い
たくましく 真実の道を
つらぬかむことつくして
人の老の やすらひのため
ああわれら夕暮に祈らばや

「新潟市工之跡」石碑移転、説明板設置 ご寄付 のお願い

この碑は、新潟下町に唯一あった高校であり、機械科・電気科・造船科で学んだ 7,000 名の若き技術者が巣立ち、港町・新潟の発展に貢献しました。
この石碑は、新潟市下町の歴史でありその「証し」として残り、次世代に伝えるべきものです。移転にあたり、皆様からのご寄付で再建したいと考えております。
ご寄付をよろしくお願いいたします。



振込先
第四北越銀行 関屋支店
ニイガタイチコウノアトセキヒホソンノカイ
「新潟市工之跡」石碑保存の会
会計 加藤 功
店番号 291 口座番号 6307716

「新潟市工之跡」石碑保存の会
代表 中央区附船町1丁目住人 岩間 正吉
中央区附船町1丁目町内会長 近藤 清
昭和40年 新潟市工卒業生 加藤 功